

2014年 1月 8日

広島大学理事（財務・総務担当）
平野 仁司 様

広島大学教職員組合
執行委員長 西別府 元日

東広島キャンパス入構用パスカードに関する要求

貴職の日頃の奮闘と当組合活動へのご理解・ご協力に敬意を表します。

さて、2013年11月29日付け「東広島キャンパス車両入構ゲートのICカード感知器に関する要求」に対する平成25年12月16日付け「東広島キャンパス車両入構ゲートのICカード感知器に関する要求について（回答）」をいただきましたが、当該回答を受け、下記のように要求いたします。

つきましては、2014年1月20日（月）までに文書で回答をお願いします。

記

1. 要求内容

東広島キャンパスの車両入構について、希望する教職員・学生には従来の入構用パスカードを速やかに交付することを要求します。

2. 理由

回答内容に、「読取条件としては、……他のICカードが入っていないこと（カード同士が干渉し合い認証できないことがあるため）」とありますが、これは利用者の立場を全く考えていない極めて非常識な運用です。

職員証や学生証をそのみに特化したカードホルダーに入れている教職員や学生はどこにいるのでしょうか。ほとんど全ての教職員や学生は、職員証や学生証は大切ですから財布に入れます。その財布には、すべての支払いを現金で行う人は別としても、普通の人は多くの場合ICチップが埋め込まれたクレジット・カード等を数枚入れているでしょう。それに何よりも運転して大学まで来るなら、財布には職員証や学生証と一緒に必ず運転免許証が入っています。ご存知とは思いますが、広島県では2009年1月4日から交付された運転免許証には全てICチップが埋め込まれており、これは現在入構する教職員と学生のほぼ全員がICカード化された免許証を所持していることを意味します。つまり、免許証と職員証や学生証が一緒に入った財布を入構ゲートにかざすと必ず「カード同士が干渉し合い認証できないことがある」状況になるのです。結果、ゲートにさしかかる度に、慌てて財布から職員証や学生証をわざわざ出さなければなりません。

更に回答によりますと、「感度は最高度」になっているとのことですから、現状の機種での利用者の不便は全く回避できないこととなります。

以上の理由から、現在の入構システムを不便とする教職員と学生には速やかに従来の入構カードを発行することを要求します。

以上